

Citation: Bennett MH, Stanford R, Turner R. Hyperbaric oxygen therapy for promoting fracture healing and treating fracture non-union. *The Cochrane Database of Systematic Reviews* 2005, Issue 1. Art. No.: CD004712.pub2. DOI: 10.1002/14651858.CD004712.pub2.

CRG名: Bone, Joint and Muscle Trauma

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 11 November 2004

Clib issue No.; N/U: 2005 issue 4

背景: 高圧酸素療法(HBOT)は、耐圧装置内で1絶対気圧(ATA)よりも高い圧力で100%酸素を間欠的に吸入させる治療法である。この技術はこれまでにさまざまな疾患の治療に使用されており、骨折治癒の遅延がみられる患者や骨癒合不全があきらかな患者に有用であると記載されている。

目的: 本レビューは、骨折治癒の遅延や骨癒合不全の治療における高圧酸素療法(HBOT)の利益に対するエビデンスを評価することを目的とした。

検索戦略: Cochrane Musculoskeletal Injuries Group trials register(2004年1月第3週まで)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(The Cochrane Library Issue 4, 2003)、MEDLINE(OVID 1966年~2004年1月第3週)、CINAHL(OVID 1982年~2004年1月第3週)、EMBASE(OVID 1980年~2004年2月)、国内で作成された Database of Randomised Controlled Trials in Hyperbaric Medicine(www.hboevidence.comで入手可能)を開始から2004年3月まで、および論文の参考文献リストを検索した。

選択基準: HBOTをHBOTなし(無治療または偽治療)と比較したすべてのランダム化比較試験を本レビューに含めることにした。

データ収集と分析: 2名のレビューアが別々に、標準化形式によりデータを抽出することを試みた。

主な結果: 選択基準を満たす試験はなかった。1件の試験はHBOTを無治療と比較していたが、臨床アウトカムが報告されていなかったため除外した。

レビューアの結論: 今回のシステマティック・レビューから、骨折部の癒合遅延または骨癒合不全の管理に対するHBOTの有効性を支持あるいは否定に関連したクリニカル・エビデンスを探し出すことはできなかった。HBOTにこのような傷害の治療における役割があるとすれば、それを明らかにするための良好な質の臨床試験が必要である。

翻訳公開日: 06年6月23日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。また、この日本語訳はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。